

15. 三戸営林署における 国有林のP・Rについて

三戸営林署 ○(技) 畑中 辰己
(争) 坂下 文明
(技) 上山 秀則
(技) 田村 正義

1 はじめに

当署管内は八戸市および三戸郡6町4村からなり、国有林は田子町・三戸町・新郷村に所在し、奥羽山系脊梁部に位置していることから、その大部分は水源涵養保安林に指定され、下流市町村の重要な水源地として、また、県南地方における木材の安定的供給源として地域社会に貢献しているところである。

この大切な資源を農林業に従事しながら、代々支えきた元山の人達は、国有林を生活の場として地域社会を形成してきたのであるが、経済の高度成長とともに農山村の労働力は、次第に都市部へと流出していった。

過疎化の進む山村自治体は人口の減少を抑えるための方策として、交通路網の確保等立地条件の整備を進めながら都市型企業の誘致や、高速交通機関の発達に伴い大消費地をターゲットとした農産物の生産体制・販売網の整備拡充、複合経営による安定した農業経営の推進等、地場産業の育成に積極的に取り組んできた。

一方、国有林野事業においては労務の固定化と事業の縮減などから、以前のように農閑期等を利用して、多くの地元民が国有林で働くという機会がなくなってしまった。

こうした背景から、国有林と地域住民との絆は次第に薄らぎ、若い世代の中には営林署を知らない人達も多くなってきている。

しかし、一方においては国有林をレクリエーションの場として利用する人達が年々増加の一途を辿り、管内11市町村はもとより県内外近隣市町村からも多くの人びとが自由に林内に入り森林の恩恵に浴している。

この素晴らしい機能をもった森林を先人から受け継ぎ、地域社会の諸要請に応えながら守り育てきた営林署の仕事を広く一般に紹介し、国有林野事業に対する理解を得ながら、地域との絆を深めていきたいと考え三戸営林署開庁百周年を機に、日常業務の傍ら職員が創意工夫してP・R活動を展開したので、その経過を取りまとめ報告する。

(写-1)

2 P・Rの方法及び経過

○地域のイベントに参加

(1) 4月28～29日

五戸町・八戸市主催 「緑の日緑化祭り」に参加し、「一畝一品」展示即売と「トドマツ苗木」千五百本を無料配布した。(写-1)



(写-2)

(2) 11月3～5日

田子町農業祭に参加し、「一畧一品」展示即売、業務用機器の展示、森林写真パネルの展示、ビデオの映写を実施した。

「一畧一品」では「昆虫シリーズ」が好評だった。

(写-2)



(3) 12月1～2日

三戸町地場産業祭に参加し、「一畧一品」展示即売業務用機器の展示をした。

「軽石盆栽」と大きく椎茸を育てた「椎茸木」に人気が集まった。

○森林教室

5月18日

田子小学校PTAが開催した「親子ふれあい遠足」に講師を派遣し、森林教室を開催し感謝された。

○開庁100周年記念行事

三戸営林署は明治23年5月に三戸小林区署として、当時の田子村に設置されてから100年を迎えることになった。

この100周年を記念して何かをやろうと言う声が職員の間に入り、記念行事実行委員会が設置され、日常業務の傍ら職員一丸となって長期にわたって準備が進められ、10月9日管内11市町村から130余名の来賓を招待し、記念植樹及び式典を実施した。

記念行事の取組をスライドで紹介する。

(1) 三戸営林署シンボルマークの制定

署内に「シンボルマーク制定委員会」を設置し、作品を募集し審査した結果、このマークを三戸営林署のシンボルマークとした。

このシンボルマークは今後いろいろなものに表示し、営林署のP・Rに役立てていきたい。

○ 上段の3本の樹は豊かな森林とチームワークを表現し (写-3)

三戸営林署の「三」を意味している。

○ 下段は三戸営林署の「戸」を意味し、森林から流れ出る清流をアレンジした。

○ また、全体の構図は三戸営林署が管理する国有林「水と森林」を表現している。

(写-3)

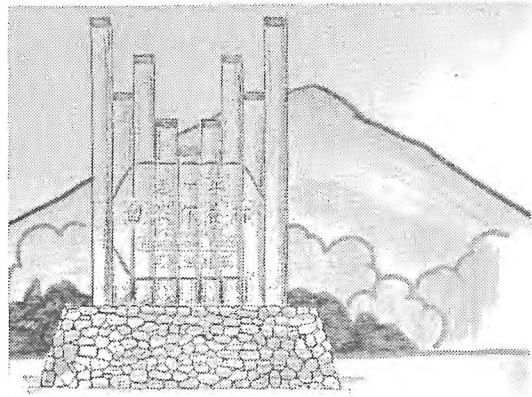


(2) 迷が平自然休養林シンボル標識の設置

昭和49年9月、自然休養林の指定と同時に設置した「休養林標識」は老朽化が進み景観を損ねる状態になったので、開庁100周年を機に「迷が平」を象徴する標識に一新した。

○ 十和田湖の外輪山「十和利 (写-4)

山」の南麓に広がる「迷が平高原」は、濃霧が発生する日が多く、以前はその中に大きな枯木がニョッキニョッキと立ち並び、まさに幻想的な世界を映し出していたと言われている。シンボル標識はその情景をデザインしたものである。



(写-4)

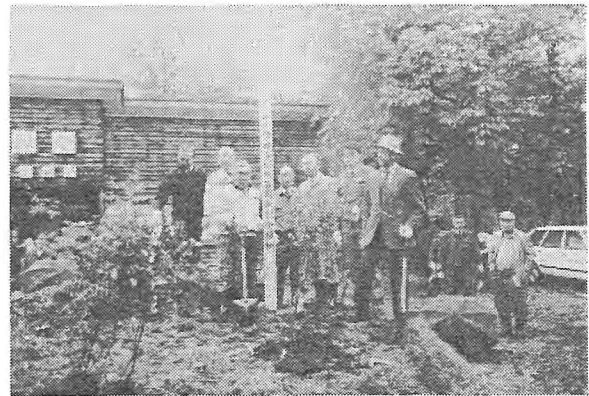
- ここを訪れる観光客の多くは、このシンボル標識をバックに記念写真を撮っているので、国有林のPRに大いに役立っている。

(3) 100周年記念植樹

迷が平自然休養林の景観維持のため、ナナカマド・ヤマモミジ等の山取り苗100本を休養林内に植樹した。

○ 写真は植樹を終え、来賓代 (写-5)

表による記念標柱埋設である。(写-5)



- (4) 100周年記念式典記念植樹のあと、田子町中央公民館において実施した記念式典で、来賓を前に「これからも地域振興や国土保全等、国有林野事業に課せられた使命を推進して参りたい」と挨拶する三戸営林署長である。

(5) 記念品

100周年記念の招待者に贈る記念品については、経費を最小限に抑えるために、直営生産跡地等から端材を集め、職員の工夫で「ペンたて」を作り参加者全員に贈り喜ばれた。

3 考 察

地域での催しには一畧一品の展示即売、森林写真の展示を主体に参加したきたが毎回同じ様なものの出品が続き、お客さんの人気は下降気味となってきたなかで、試作した「昆虫シリーズ」(小径木を輪切りしたものに、昆虫の絵を印刷)や、山野草を植え込んだ軽石盆栽に人気が集まった。

アイデアを形にしていくには、職場全体の取組が大切であるが職員が減少するなかで難しい問題が多いことも事実である、いろいろ創意工夫をしながら新鮮さを失わない一品を模索していかなければならないと考えている。

今後の取組としては、年間10万人を超える観光客が訪れる「迷が平自然休養林」を国有林のPRの場に活用していきたい、その一つの案としていま検討中であるが休養林内の樹木・植生・野鳥・昆虫等の案内小冊子を作り、観光客等入林者に販売し休養林内をモデルに森林の働きについてPRするとともに、増収につなげていきたい。